

家庭でしつけよう 新入学（園）児の交通安全

三月—もうすぐ新学期です。新入学（園）児をおもちのご家庭では、期待に胸をふくらませながら、何かと準備にお忙しいことでしょう。

入学準備のなかで、忘れてはならないのがお子さんに対する交通安全教育です。

これまで比較的、家の近所で遊んでいた子供たちも、通学（園）するようになると、行動範囲がグンと広がります。行き帰りもとより、新しい友達の家遊びに行ったり……ここで気を付けなければならないのが交通事故です。

お子さんへの交通安全教育は、家庭での「しつけ」の一つとして、ぜひ実行してください。お子さんを交通事故から守るために……。

これが子供だ！ 大人とは違う行動パターン

子供は、大人には考えられないような行動に出ることがよくあります。交通事故から子供の生命を守るには、子供特有の行動パターンを理解することが大切です。一般的な子供の行動特性としては、次のようなことが挙げられます。

一つのことには夢中になると、周囲のことが目に入らなくなる

お母さんが道路の反対側にいるのを見つめたり、遊んでいたボールなどが車道にころがっていったりすると、車の通るのも忘れて走り出してしまうことがあります。

その時どきの気分によって、行動が変わる

子供は、喜怒哀楽がそのまま行動に表れることが多く、そのため、身の周りのことに対する注意力が散漫になることが多い。

「危ないよ」「注意してね」といった抽象的な言葉ではよく理解できない。

「飛び出し」はなぜ危ないか、止まっている自動車の下や後ろで遊ぶのがどうして危険なのか、言葉で注意するだけでなく、具体的に「現場」で教えましょう。



物陰で遊ぶ傾向がある

子供は、自動車のそばやダンボール箱の中に入って遊んだりすることが好きです。物陰などで遊ぶと、運転者などが気づかないことが多いのでたいへん危険です。

一応の交通ルールは理解できても、応用動作ができないことが多い。

いつもの通学路では信号をきちんと守り、横断歩道を正しく渡れても、別の道路では、それができないことが多い。

よしあしにかかわらず、大人や年上の子のマネをする。

大人が、黄信号なのに走って渡ったりすると、子供はマネをします。大人のルール違反は子供の交通安全のしつけに良くない影響を与えます。



手を挙げるとクルマは必ず止まってくれる——といったように、物事を単純にしか理解できないところがある。

車は急に止まれません。手を挙げて道路を渡るように教える

と、子供は「手を挙げれば車はすべて止まってくれる」と単純に思い込みがちになります。子供が正しく理解できるように、教え方にも注意を払いましょう。